



高知県

第 50 号 2008 年 1 月

農業技術センターニュース

目 次					
	‘南国そだち’研究会による生産者および普及との連携	… 1		遮光が夏期のハウス内気温および米ナスの収量・品質に及ぼす影響	… 4
	アスパラガス半促成長期どり栽培	… 2		「ぼろっ」と渋皮が簡単にむけるクリ新品種 ‘ぼろたん’	… 5
	シシトウ腐敗果の軽減対策	… 3		タイリクヒメハナカメムシに対するインプレッション水和剤およびスカッシュの影響	… 6

‘南国そだち’研究会による生産者 および普及との連携



写真 1 成績検討会のようす
(農業技術センター)



写真 2 現地検討会のようす
(高知市高須)

表 1 現地から採集した品質の異なる株の生育および収量構成要素(南国市内水田、2007年)

品質評価 (整粒粒比)	最長稈、次長稈		稈基重 (mg/本)	収量構成要素				白未熟粒 (%)
	稈長 (mm)	穂長 (mm)		穂数 (本/株)	1穂粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	玄米千粒 重(g)	
高(80%)	664	179	282	38	55.5	71.8	22.2	9.3
低(50%)	757	164	247	39	63.4	29.7	20.7	33.7
有意差	*	ns	*	ns	*	*	*	**

注1) 調査は各3株。整粒粒比、白未熟粒(死米含む)は穀粒判別器(RGQ1 10A, S社製)による。

2) *, **はそれぞれ5%、1%で有意差のあることを示し、nsは有意差なし(t検定、 $P < 0.05$)。

‘南国そだち’研究会は農業技術センターで育成された水稻新品種‘南国そだち’の高品質生産と普及面積の拡大を目的に平成18年10月に組織されました。現在の会員数は、栽培農家と全農こうち県本部、各JA、県の関係者あわせて約200名です。これまで現地検討会、成績検討会、育苗・栽培講習会といった活動の中で、高品質化には従来の品種より、基肥を少なくし、疎植にすることがよい等の栽培指針が示されています。ところが、平成19年には寡照や台

風といった気象災害に見舞われ、著しい減収と品質低下がみられました。

研究会ではいち早く、現地実態を調査し、優良、不良事例を洗い出して原因を究明しました。その中で、生産地域は異なりますが、共通して稈が短く、1穂粒数が少なく、稈質の優れた株では気象被害をあまり受けなかったことが判明しました(表1)。今後も情報交換を行いながら、高品質安定生産と普及面積の拡大を進める予定です。
(水田作物担当 坂田雅正 088-863-4916)